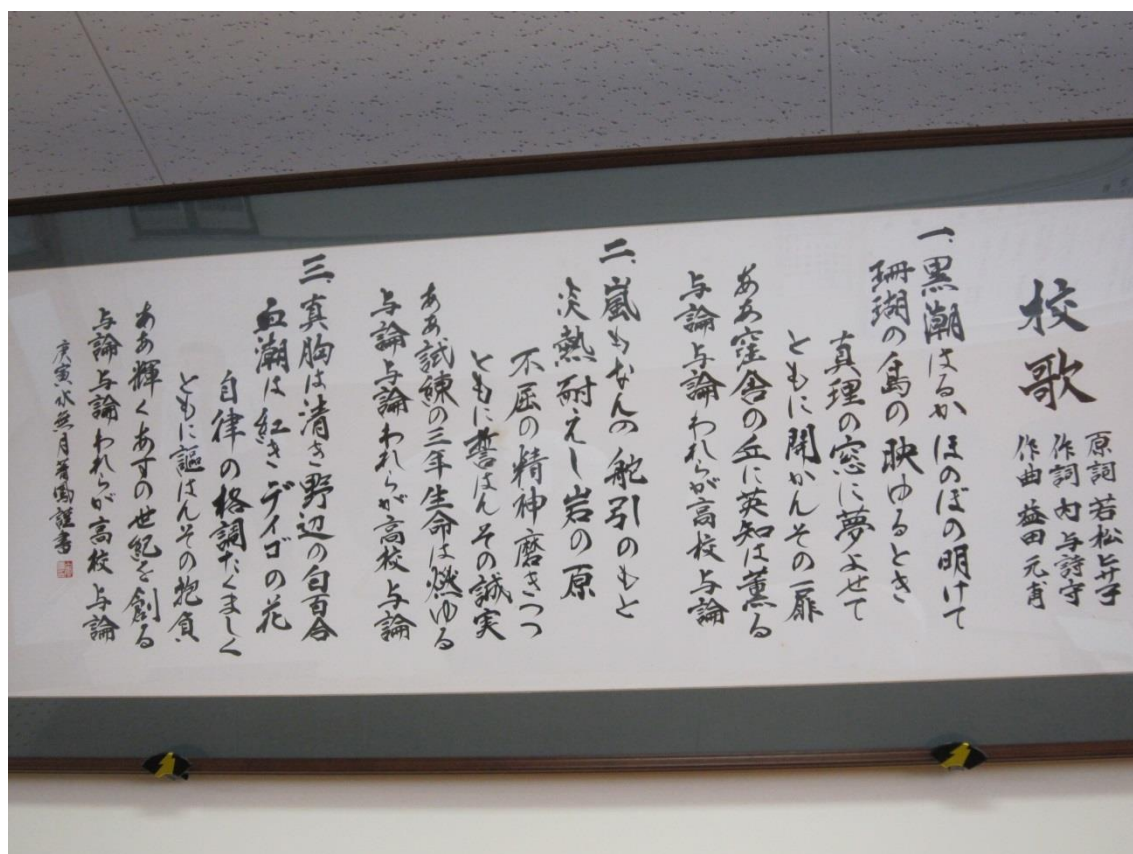


令和2年度 与論高校スクールプラン



令和2年7月16日（木）

鹿児島県立与論高等学校



令和2年度 学校経営方針

鹿児島県立与論高等学校

1 教育目標

憲法、教育基本法の精神にのっとり、「好学の気風」「創造の精神」「親和の態度」「不屈の根性」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で豊かな人間形成をめざし、わが国の文化と伝統を尊重する態度と国家・社会の進展に寄与できる有為な人材を育成する。

2 経営方針

- (1) 教育者としての使命と責任を自覚し、教育活動の改善・充実と資質向上を図り、一致協力して教育目標の実現に努める。
- (2) 家庭及び地域社会との連携を深めるとともに、中高一貫教育の制度も充実させ、説明責任を果たし、魅力的で開かれた学校づくりに努める。
- (3) 生徒一人一人を大切にし、個々の個性・能力・適性等に応じた指導の充実を図り、自ら学ぶ意欲と社会の変化への適応力を持つたくましい人間を育成する。
- (4) 豊かな教養とともに、人権に対しても深い認識を持つ人物を育成する。
- (5) わが国や郷土のもつよき自然と伝統・文化を愛し尊重する、心豊かな人間を育成する。

3 努力目標

(1) 学習指導（自学の姿勢の育成）

- ア 学習意欲の喚起を図るための指導法の研究
- イ 授業への真剣な取り組みを強調しながら、予習・授業・復習の学習サイクルを確立し、家庭学習の充実を目指す指導
- ウ 中高連携の利点も活かしながら、生徒個々に対応した基礎学力や応用力の育成
- エ 学習活動の多面的評価及び新学習指導要領への移行に備えた教育課程の研究・改善

(2) 進路指導（将来を見据える姿勢の育成）

- ア 個性・能力・適性等に関する自己理解を促進するための指導
- イ 進路意識の高揚と進路目標の早期決定を図る指導
- ウ 職業観・勤労観の育成
- エ 大学入試改革に向けた情報収集と対策の推進

(3) 生徒指導（自律と相互尊重の心の育成）

- ア 基本的生活習慣及び規範意識の確立による自律心の育成
- イ モラルの高揚による相互尊重の心の育成
- ウ 感動体験やボランティア活動等の推進による自己肯定感の涵養
- エ 時・場・機会を判断し、それに基づき行動できる個人または集団の育成

(4) 保健指導（健全な心身の育成）

- ア 清掃・美化活動の推進による清潔で整然とした学習環境の確立
- イ 危機管理意識の保持と安全・安心の確保
- ウ 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を育む保健教育の推進
- エ 幼・小・中学校との連携も図りながら、事故や疾病への予防・対応の意識の育成

令和2年度 重点目標

1 重点目標

予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育成する。

2 先生方へ

- (1) 高大接続改革の趣旨を踏まえ、教育活動の充実を図る。
- (2) 保護者・地域との連携をはかり、信頼される学校づくりを目指す。
- (3) 「伝える」「危機意識をもつ」「服務規律の厳正確保」

3 生徒たちへ

- (1) 自他の生命の尊重 (命・人権尊重・交通規範等の厳守)
- (2) ワンランク上を目指す (学習・進路・学校行事・部活動等)
- (3) 凡事徹底 (時間・場所・約束・所有・感謝等)

4 共通理解と共通実践

- (1) 教育の質の向上を図るため、カリキュラム・マネジメントを実現する。
- (2) 特別活動を要とし、キャリア教育の充実を図る。
- (3) 業務改善に努め、働き方改革を推進する。

《与論高等学校の教育目標》

憲法，教育基本法の精神にのっとり、「**好学の気風**」「**創造の精神**」「**親和の態度**」「**不屈の根性**」の校訓のもと，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で豊かな人間形成をめざし，わが国の文化と伝統を尊重する態度と国家・社会の進展に寄与できる有為な人材を育成する。

《重点目標》

予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育成する

予測が困難な時代を主体的に生き抜くためには，「学ぶことの意義を理解し(**好学**)，未知の状況の中で，正解のない問いに対しても，よりよい解決策を見出す(**創造**)のために，多様な人々と協働しながら(**親和**)，粘り強く取り組もうとする力(**不屈**)」が必要である。

| 校訓 資質・能力の三つの柱 | 好 学 学問を好むこと。学問に 興味や関心をもつこと。 | 創 造 それまでなかったものを 初めてつくり出すこと。 | 親 和 互いに親しみ，心を合わ せること。 | 不 屈 困難に屈せず意志を貫 くこと。 |
|---|---|--|---|---|
| ＜何を理解しているか・ 何ができるか＞ 生きて働く 知識 及び技能 | 「学ぶこと」の意義の 理解と，「学び方」に 必要な技能 ※ 自律性 | 問題の解決に向けて，既 得の知識・技能を活用し たり，新しい知識・技能 と関連づけて考えたり する方法の理解と，その ために必要な技能 柔軟性 | 多様性に対する理解 及び協働して学び合 うことの意義の理解 と，そのために必要な 技能 協調性 | 目標をもって粘り強 く取り組むことの意 義の理解と，そのため に必要な技能 計画性 |
| ＜理解していること・ できることをどう使う か＞ 未知の状況にも対 応できる 思考力， 判断力，表現力 等 | 問題の解決に必要な 知識・技能は何かを 自己と関連づけて考 え，整理し，それを 学び取ることができる力 応用力 | 問題の解決に向けて， 既存の価値観にとらわ れることなく，新たな 意味や価値を生み出す ことができる力 問題解決力 | 問題の解決に向け て，多様な人々と考 えを伝え合い，合意 形成を図ったり，自 己の考えを深めて 表現したりするこ とができる力 発信力 | 問題の解決に向け て，各教科等で身に 付けた力を統合的 に活用し，粘り強く 取り組むことがで きる力 実行力 |
| ＜どのように社会・世界 と関わり，よりよい人生 を送るか＞ 学びを社会や人生 に生かそうとする 学びに向かう力， 人間性等 | 「学ぶこと」を自らの キャリア形成と関連 づけ，学び続けようと する態度 生涯学習基礎力 | 自ら問題を発見し，そ の解決策を見出す姿 勢を，よりよい人生や 社会の構築に生かそ うとする態度 構想力 | 多様な人々と体験的 な活動を通して協働 しながら，よりよい 人生や社会を構築し ていこうとする態度 実践力 | 困難な状況でも目 標に向かって粘り 強く取り組もうと する態度 忍耐力 |

※各枠内に示した資質・能力は，相互に関連させながら育成を目指す主なものである。

与論高校スクールプラン実施計画

1 めざす学校像

本校は、鹿児島県最南端の与論島にある唯一の高校として今年創立 54 周年を迎えた。社会の一員としての「島だち」、すなわち「自立」を果たすための教育機関として、与論町の未来を担う健全な若者を育成する場として町民からの期待も厚い。

平成 12 年度から実施している中高一貫教育のもとで「郷土を愛し、自己の個性や能力の伸長を図る生徒の育成」を基本に据えて、生徒の支援体制を整備し、希望進路の実現及び調和のとれた人間育成の観点から文武両道を奨励するとともに、与論の「誠」の心を真に理解し、誇りにできる職員・生徒・保護者の集団づくりを目指す。

2 中期的課題

- (1) 自学の姿勢の育成
- (2) 将来を見据える姿勢の育成
- (3) 自律心の育成
- (4) 健全な心身の育成
- (5) 幼小中高一貫教育のあり方についての研究推進

3 学校経営方針に基づく今年度の目標

(1) 教務部

| 努力目標 | | 学校長経営方針との整合性 |
|------|---|-----------------------------|
| 1 | 学校行事の精選と実授業数の確保に努め、効果的な学習指導を行う。 | 2- (1) 「教育活動の改善・充実」 |
| 2 | P T A 活動を通して、家庭の教育力と連動した教育活動を展開する。 | 2- (2) 「家庭及び地域社会との連携」 |
| | | 2- (2) 「説明責任を果たし、…開かれた学校」 |
| | | 2- (5) 「郷土のもつ良き伝統を尊重」 |
| 3 | 広報活動や授業公開を通して、学校への関心を高め、地域社会の教育力と連動した教育活動を展開する。 | 2- (2) 「家庭及び地域社会との連携」 |
| | | 2- (5) 「郷土のもつ良き伝統、文化を尊重」 |
| 4 | 職員の資質の向上を図る機会を確保する。 | 2- (1) 「教職員の資質向上」 |
| | | 2- (3) 「個性・能力・適性等に応じた指導の充実」 |

目標達成のための数値目標

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| ① 年間授業時数 <u>3,100</u> 時間以上確保 | ② 『みちしるべ』発行 年 <u>6</u> 回 |
| ③ H P 更新 月 <u>3</u> 回 | ④ 職員研修 年 <u>5</u> 回 |

目標達成のための具体的方策

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ① 行事の精選 | |
| ②③ 積極的な掲載内容募集と企画会での進捗状況確認 | |
| ④ 各分野 1 ~ 2 回実施 | ・教務分野 (内規, 人権同和教育) |
| | ・生徒指導分野 (教育相談, いじめ防止) |
| | ・進路指導分野 (学力検討会, 総合的な探究の時間) |
| | ・保健分野 (心肺蘇生法, 不審者対応, 生徒情報) |

(2) 進路指導部（将来を見据える姿勢の育成）

| 努力目標 | | 学校長経営方針との整合性 |
|------|--|--|
| 1 | 3年間を見通したキャリア教育の推進を図り、保護者や地域と連携しながら、職業観や学習に対する目的意識及び生徒の進路意識の高揚に努める。 | 3-(2) イ「進路意識の高揚と、進路目標の早期決定」 3-(2) ウ「職業観・勤労観の育成」 |
| 2 | 進路目標の実現のために全職員の協力を得るとともに、小・中学校との連携を深めながら、生徒一人ひとりの能力・個性を生かす進路指導を推進する。 | 2-(3) 「生徒一人一人……充実を図り」 3-(2) ア「個性……自己理解を促進」 |
| 3 | 新入試等の進路情報や資料の収集に努め、生徒・保護者に向けて積極的な情報提供を行う。 | 2-(2) 「開かれた学校づくり」 3-(2) エ「情報収集と対策の推進」 |

| | | |
|------|-------|--|
| 進路企画 | 努力目標 | 各学年・教科との連携を強め、組織的な進路指導を展開する。 |
| | 重点目標 | 各コース(総合・文理)において、生徒が生き生きと活動できる特色づくりを行う。 |
| | 具体的取組 | (1) 各コースの目標にあった各行事の企画や進路指導に努める。 (2) 4部の連携を密にし、よりよい環境・体制づくりに努める。 |
| 学習指導 | 努力目標 | 個々の生徒の進路希望に応じた学力の向上を図る。 |
| | 重点目標 | PDCA サイクルを確立させる。 |
| | 具体的取組 | 「学習の記録」で、PDCA サイクルを確立させる。 ・「計画」と「実際」の欄の使い分けを徹底させる。 ・教員が個々の生徒の学習の実態を確認し、指導に役立てる。 |
| 進学指導 | 努力目標 | 個に応じた進路指導を行う体制を築き、学習意欲を高める手立てを講じる。 |
| | 重点目標 | (1) 生徒全員が希望する進路に進めるようにする。 (2) 推薦入試・AO入試で力を発揮できるよう小論文・面接指導の組織的指導を行い、さらにその指導法の充実を図る。 |
| | 具体的取組 | (1) 朝課外・土曜課外・放課後課外・個別指導等により、演習時間を確保し、学力の底上げを図る。 (2) 総合的な探究の時間や放課後の個別指導等を活用し、全職員で組織的かつ計画的な小論文・面接指導を展開する。 |
| 調査統計 | 努力目標 | 諸調査や統計の円滑な処理に努め、積極的な情報提供を行う。 |
| | 重点目標 | (1) 年間の調査統計書類の把握に努め、円滑に処理を行う。 (2) 書類の整理・管理の方法を整備する。 |
| | 具体的取組 | (1) 調査統計書類一覧の作成、処理済書類の整理・保管を行う。 (2) 資料室の有効活用と、利用しやすい進路資料作成に努める。 |
| 就職指導 | 努力目標 | 厳しい就職試験を突破し、よりよい社会人として島立ちできる力を養う。 |
| | 重点目標 | (1) 計画的なキャリア指導の充実 (2) 社会人として必要な一般常識・マナー・態度の育成 |
| | 具体的取組 | (1) 全商主催検定試験に積極的に取り組み、多くの資格取得を目指す。 (2) 希望職種・地域を2年3学期までに絞り込ませる。 (3) 面接・作文など就職試験対策を充実させる。 |

目標達成のための数値目標

| | |
|-------|--|
| 総合コース | ① 就職内定率 100%達成 ② 全員が最低でも全商検定1級を1種目以上取得 |
| 文理コース | ① 希望する進路先に全員が合格 ② 各模試において、各教科とも、SS60以上の割合が受験者数の15%以上、SS50以上の割合が受験者数の50%以上 |

(3) 生徒指導（自律心と相互尊重の心の育成）

| 努力目標 | | 学校長経営方針との整合 |
|------|---|---|
| ① | 基本的な生活習慣（特に、制服の正しい着用、時間の厳守）の定着と、強い心を育てる教育の推進に努める。 | 2-(1) 「…… 一致協力して教育目標の実現に努める」 |
| ② | 全職員の共通理解を深め、職員研修を通して共通実践を推進する。 | 2-(1) 「教育者としての使命と責任を自覚し、教育活動の改善・充実と資質向上を図り」 |
| ③ | 校則及び交通規則を守ることを通して、社会生活におけるモラルの高揚を図る。 | 3-(3) ア「規範意識の確立 3-(3) エ「時・場・機会を判断し……集団の育成」 |
| ④ | 生徒会活動・部活動・ボランティア活動をさらに活性化させることにより、生徒の自立性・自主性の発達を促進し、個性の伸長を図る。 | 2-(4) 「豊かな教養とともに……人物を育成する」 2-(3) 「社会の変化への適応力を持つたくましい人間を育成」 |
| ⑤ | 保護者・地域社会・関係諸機関との連携を図る。 | 2-(2) 「家庭及び地域社会との連携を深め……」 |

目標達成のための数値目標

| |
|------------------------|
| ① 遅刻者数月 10 名以下 |
| ② 問題行動発生件数 0 件 |
| ③ 毎月の頭髪服装指導全員合格 |
| ④ 前後期 2 回ずつの生徒会各種委員会実施 |
| ⑤ 図書貸出冊数生徒ひとり年間 15 冊 |

目標達成のための具体的方策

| |
|--|
| ① 遅刻者数を月 10 名以下 ア 学期始め・定期考査前の登校指導の実施 イ 本人の不注意による遅刻に対しては、保護者も含めた指導の実施 |
| ② 問題行動未然防止のための活動 ア 生徒の行動に普段から留意し、生徒の小さな変化に気付くことができるようにする。 |
| ③ 毎月の頭髪服装指導全員合格 ア 事前指導を徹底する。 イ 風紀交通委員で予備指導を行う。 |
| ④ 前後期 2 回ずつの生徒会各種委員会実施 ア 活動重点項目の設定・反省の徹底 |
| ⑤ 図書貸出冊数生徒ひとり年間 15 冊 ア 朝読書の本を図書室から借りるよう図書委員会から呼びかけてもらう。 イ 図書購入希望調査を取り、生徒が興味関心を持ちやすい図書を検討し購入する。 ウ 校内掲示や図書館便りにより新刊図書等の情報提供を行う。 エ 1 年間(80 冊)及び 3 年間(150 冊)の多読者を表彰する。 オ 本の未返却を無くす。(図書委員会からも働きかける) |

(4) 保健指導（健全な心身の育成）

| 努力目標 | | 学校長経営方針との整合性 |
|------|---------------------------------------|--|
| 1 | 学校保健および学校安全に対する共通理解を深め、保健部活動全体の推進を図る。 | 2-(1) 「……教育活動の改善・充実と資質の向上を図り……」 |
| 2 | 校内環境の整備および校内美化への積極的・自主的活動の促進を図る。 | 3-(4) ア「清掃・美化活動の推進……学習環境の確立」 |
| 3 | 学校内外で起こりうる危機に対して、適切に対応する知識と態度の育成を図る。 | 3-(4) ウ「人間尊重の精神と……保健教育の推進」 |
| 4 | 健康や性についての理解を深め、命の大切さや、人を思いやる心の育成を図る。 | 3-(4) ウ「人間尊重の精神と……保健教育の推進」 3-(4) エ「……事故や疾病の予防・対応の意識の育成」 |
| 5 | 積極的な健康増進と体力・運動能力の向上および気力の充実に努める。 | 2-(3) 「生徒一人一人を大切にし、個々の個性……」 |

今年度の数値目標

- ① 月1回の安全点検と年2回の避難訓練の実施，1年生全員普通救命講習受講
- ② 各学年の保健指導講話を年1回以上行う。

目標達成のための具体的方策

- ① 年間行事計画に従い毎月の点検を行い対応，避難訓練を年2回，普通救命講習を消防署と連絡を密にして実施する。
- ② 学年，各教科，LHR係等と連携し，時間の確保，活動の評価を行い，継続化する。

(5) 学年部の取組

【1学年】

《目標》 ・ 基本的な生活習慣及び学習習慣を確立させる。
・ 適正な進路並びにコース選択をさせ，その実現に向けた学力を身につけさせる。

《取組》 1 基本的な生活習慣の確立

(1) マナー・礼儀・服装等の指導

(挨拶，言葉遣い，服装，頭髪，期日・時間厳守等の指導)

(2) 遅刻，欠席に対する本人指導と保護者への協力依頼

2 基本的な学習習慣の確立

(1) 始業2分前の着席，準備

(2) 課題提出の徹底

(3) 家庭学習の習慣化および自主学習の充実

3 適正な進路選択およびコース選択

(1) 模試やその事前・事後指導を通して，自らの特長や適性について理解する。

(2) 総合的な探究の時間を中心とした進路探究を通して，進路に関する情報を収集する。

【2学年】

《目標》 リーダーシップ 生徒会や学校行事等において任された役割を果たす。

進路研究 進路を具体的に決め，それに応じた学力を身につける。

《取組》 1 ・ 学校生活を中心に，基本的な生活習慣を身につける。

・ 生徒会・部活動・地域活動等に積極的に参加する。

2 ・ 総合的な探究の時間やインターンシップ，修学旅行の経験を通して，見識を広め，自分の適性について考える。

3 ・ 授業で勝負を徹底し，3・4・6（サンシロー）を目標に十分な宅習時間を確保する。

・ 教育相談を通して生徒の主体的な進路研究を促し，必要な情報を収集・分析する。

【3学年】

《目標》

最上級生としての自覚を持たせ、充実した高校生活を送らせることにより、個々の進路目標の実現をめざす。

- 1 社会人としての責任が果たせるよう基本的な生活習慣を確立させ、心身共に豊かな生徒の育成をめざす。
- 2 主体的に進路目標を定め、その実現に向けて努力できる生徒の育成に努める。
- 3 責任ある行動がとれ、地域の諸活動にも積極的に参加する生徒を育てる。

《取組》

- 1 社会人としての責任が果たせるよう基本的な生活習慣を確立させ、心身共に豊かな生徒の育成をめざす。
 - (1) 挨拶・言葉遣い・服装容儀・聞く態度・時間厳守等の指導
 - (2) 朝課外の完全出席率向上のための指導
 - (3) 効率的な家庭学習の実践についての指導
- 2 主体的に進路目標を定め、その実現に向けて努力できる生徒の育成に努める。
 - (1) LHRを活用した進路情報提供及び進路実現の計画的な指導
 - (2) 「総合的な学習の時間」を活用した小論文・面接指導
 - (3) 進路（学力）検討会の実施
 - (4) 三者面談・教育相談等の実施
- 3 責任ある行動がとれ、地域の諸活動にも積極的に参加する生徒を育てる。
 - (1) 校則や交通規則に対する意識の向上
 - (2) 学年朝礼における指導講話の実施
 - (3) 生徒会・部活動・地域活動・体育祭・文化祭等を通じたリーダー育成

(6) 各教科の努力目標

国 語

- 1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力や思考力・想像力を向上させる。
- 2 わが国の伝統的な言語文化に対する関心・理解を深め、国語を尊重する態度を育てる。
- 3 語彙力・文字力等の基礎的な国語力の定着を図り、豊かな言語感覚を養う。
- 4 進路指導部と連携し、作文・小論文指導等の充実を図る。
- 5 図書係と連携し、朝読書をはじめとする読書指導の充実を図る。

地歴・公民

- 1 国際社会で主体的に生きる力を育成するため、現代社会の抱える地球的な課題を科目の枠を超えて扱うことにより、問題解決能力の涵養に努める。
- 2 「わかる授業」を実践するため、授業方法の改善、教材の研究・開発に努める。
- 3 マス＝メディアやIT機器の活用により、情報化社会を担う一員としての自覚と資質を育成する。
- 4 生徒の多様な進路希望に対応するため、添削指導など個別指導の充実を努める。

数 学

- 1 基礎・基本の定着のため、生徒の実態に応じた指導法の研究に努める。
- 2 興味・関心を抱かせるような教材研究を心掛け、授業の工夫・改善に努める。
- 3 生徒とのコミュニケーションを通して、学習に積極的に取り組む姿勢を育成する。
- 4 中高の乗り入れ授業を通して、中学校とのさらなる連携を図る。

理科

- 1 実験・観察を通じて事象を科学的に考察し、処理する能力と態度を育成する。
- 2 教材の精選と効果的な指導方法を研究し、基礎学力の定着を図る。
- 3 理科施設・設備を整備し、実験器具の充実と活用を図る。
- 4 地域の実状に対応した中高一貫の教育課程と教材の研究に努める。
- 5 生徒の実態に応じた指導法の研究に努める。

外国語

- 1 英語を理解し、英語で表現する基礎的な能力を身につけさせる。
- 2 言語や文化に対する関心を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- 3 A L Tの協力のもと国際理解を深め、国際協調の精神を育成する。
- 4 習熟度別クラス編成により生徒の能力に対応した指導を行い、学力の伸長を図る。
- 5 少人数クラスを充実させ、生徒が自分の考えを英語で表現する機会を増やす。

保健体育

- 1 集団による運動の実践を通して公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
- 2 健康の保持増進を図る能力や態度を育成するために、健康安全に関する基礎的・基本的知識を理解させるとともに、健康安全に対する総合的な認識の高揚を図る。
- 3 健康問題を科学的にとらえ、的確に対応できる人間の育成を図り、自ら健康問題に気づき、思考し、判断できる能力の育成をめざす。
- 4 生涯を通じて健康な生活を送るために、生涯の各段階の健康問題に応じた適切な対応ができる能力の育成を図る。

芸術

芸術（音・美・書）の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

商業

- 1 多様化する現代社会に対応できるよう専門的な知識と技術を身につけさせる。
- 2 将来に役立つような検定取得に取り組み能力の育成を図る。
- 3 生徒の多様な実態に対応し、一人一人の個性を伸ばしていく教育を展開する。
- 4 職業観・勤労観を養う。

家庭

- 1 基礎的・基本的な知識と技術の習得を図る。
- 2 自らの生活の質の向上のため、学習した成果を積極的に実生活で活用しようとする生徒の意欲と態度を育てる。
- 3 生徒の実態に合わせた指導法の研究に努め、実践的・体験的な活動を多く取り入れた授業を行う。

情報

- 1 情報の収集・処理・発信などの実習を通して、情報活用の実践力を育てる。
- 2 情報や情報技術を正しく取り扱い、情報社会の一員として責任ある行動をとれるようモラルとマナーを身につけさせる。
- 3 コンピュータの特性や情報通信ネットワークの仕組みなどについて基礎的な知識を身につけさせる。